

2025年度 入学前ワークショップ

英語セッション実施報告書

1. はじめに

2026年4月に名桜大学へ入学予定の学生（主に沖縄県北部地区の高等学校出身者）を対象に、2月12日から17日まで「入学前特別講座I・II」が実施された。本ワークショップにおける英語セッションは、例年と同様に、高校と大学における学習のギャップを軽減し、入学前に大学レベルの英語授業を体験する機会を提供することを目的として実施された。

本英語セッションは補習的な授業としてではなく、大学1年次英語科目の構成、進度、到達目標を模擬的に体験できる実践的授業として設計された。コミュニケーション活動や教科書を用いた指導に加え、現役学生が作成したボードゲームを用い、英語コミュニケーション科目の一部も紹介した。授業中はLLCチューターが参加し、学生の言語使用や活動を支援した。

実施要項に示されている本講座全体の目的は、学習目標の明確化、高校と大学の学びの違いの理解、入学前の学習習慣の維持等である。本英語セッションは、主体的参加、コミュニケーション活動、自己の英語力への振り返りを通じて、これらの目標達成に寄与することを目指した。

2. 日程および出席状況

本ワークショップは4日間にわたり実施された。英語に関しては、2月12日に基礎力診断テストを実施し、その後2月13日、16日、17日の3日間に体験型英語授業を行った。

英語セッション日程

日付	時間	主な英語活動	備考
2月12日	10:35-11:20	英語基礎力診断テスト	チューター2名
2月13日	13:00-14:30	英語セッション1（基礎英語）	チューター3名
2月16日	13:00-14:30	英語セッション2（基礎英語）	チューター3名
2月17日	13:00-15:00	英語セッション3（英語コミュニケーション）	チューター3名

登録者数は77名であった。初日の出席率は高かったが、最終日には約60名程度まで減少した。しかしながら、英語セッション中の参加姿勢は概ね積極的であり、活動への関与も良好であった。

3. 内容

3.1 英語基礎力診断テスト

2月12日に英語基礎力診断テストを実施し、入学予定者の英語力の概況を把握した。テストは以下の5セクションで構成され、合計50点満点であった。[Listening (5問×2点) ,Vocabulary (10問) ,Grammar (10問) ,Reading (5問×2点) ,Writing (10点)]

集計結果による平均点は以下の通りである。

Section	Average	Range	2025 Test Averages
Listening	4.22	0-8	3.21
Vocabulary	6.21	3-10	5.11
Grammar	7.37	3-10	5.63
Reading	6.69	2-10	5.57
Writing	4.94	0-9	4.80
Total	29.43		24.32

全体として、文法および読解において比較的高い得点が見られる一方、リスニングおよびライティングは相対的に低い傾向が見られた。これは中等教育段階における形式重視型指導の影響とも考えられ、大学においては技能統合型およびコミュニカティブ活動の重要性が改めて示唆される結果である。

また、得点分布には幅があり、多様な習熟度の学生が混在していることが確認された。このことは、協働学習やペア活動を取り入れることの意義を裏付けるものである。

3.2 英語授業セッション

3日間の英語授業は、大学1年次の英語授業を模擬的に体験できるよう設計された。年間授業と同様の構成および指導方針に基づき、リスニング・スピーキング・リーディング・文法活動をバランスよく取り入れた。

主な活動内容は以下の通りである。

- ・ ウォームアップおよびスモールトーク
- ・ 教科書を用いた文法・語彙活動
- ・ ペア・グループによるスピーキング活動
- ・ 情報ギャップ活動
- ・ ガイド付きコミュニカティブタスク
- ・ 英語コミュニケーションのボードゲーム活動

学生は英語を「学習対象」としてのみならず「コミュニケーションの手段」として用いることが求められた。授業進度および運営方法も大学水準に合わせて設定され、高校から大学への移行ギャップを縮小することを意図した。

LLCチューターは各セッションに参加し、特にペア・グループ活動およびボードゲーム活動において、指示理解や意味交渉の支援を行った。

3.3 英語コミュニケーション：ボードゲーム活動

最終日の授業では、英語コミュニケーション科目の紹介として、現役学生が作成したボードゲームを活用した。これらのゲームは、入学後第2学期に学生自身が制作するプロジェクトの実例であり、プロジェクト型学習の具体例として提示された。

学生は英語で書かれたルールを読み、理解し、グループ内で協働しながら活動を進めた。英語のみの説明に当初は戸惑いを示す学生もいたが、多くの振り返りから、最終的には活動に主体的に参加できた様子が見えてきた。

本活動は学生の動機づけや自信の向上に寄与したと考えられる。英語を遊びや協働活動の中で用いることで、試験科目としての英語から、コミュニケーションの言語としての英語へと認識が広がったことが示唆された。



4. 学生の振り返りと成果

ワークショップ終了時に学生に振り返りを求めた。以下は代表的な記述である。

4.1 英語への不安軽減と動機づけの向上

「英語への苦手意識がゲームを通じて少なくなった。英語も楽しむことが大切だということがわかった。」

「もっと外国語を学ぼうという意欲が湧きました。」

「楽しいゲームをして映画を身近なものとして、感じる事ができて、勉強のための英語よりも、楽しむための英語として活用することができた。」

4.2 自己理解と成長の実感

「グループでゲームを楽しんだ。しかし、自分の英語力の無さが浮き彫りになったため、残りの40日間で基礎をしっかりできるように改めて学び直そうと思えた。」

「ルールや遊び方が英語で書いていたけど、そんなに抵抗なく読むことができて成長を感じた。」

4.3 協働学習と支援体制

「英語を通して色々な人たちとコミュニケーションを取れたし、楽しさを感じることが出来たので良かった。」

「先生方やチューターがとても優しく、分からないことがあったら丁寧に教えてくれたので楽しんで授業を受けることができました。ありがとうございます！」

「統計基礎がテストだったから身構えてたけど、先輩方が作ったゲームでルールの難しいものもあったけど、英語講座が楽しくできたのでよかったです。」

これらの振り返りから、学生は英語授業への不安軽減、動機づけ向上、自己理解の深化を経験したことが確認できる。

5. 考察と提言

本年度の英語セッションは、高校から大学への学習移行を円滑にするという主要目的を概ね達成したと考えられる。診断テスト結果からは、文法・読解に比してリスニング・ライティングが課題であることが明らかとなり、今後も技能統合型・コミュニケーション指導の重要性が示唆された。

体験型授業は、英語への不安軽減と動機づけ向上に効果があったと考えられる。また、ボードゲーム活動はプロジェクト型学習の具体例として有効であった。

最終日に出席者が減少する傾向は見られたが、参加学生の活動への関与度は高かった。LLCチューターの存在も学習環境の質向上に寄与した。

今後の実施に向け、以下を提言する。

1. 体験型授業の継続
2. コミュニカティブ活動の充実
3. ボードゲーム活動の維持
4. LLCチューターの継続的参加
5. 出席維持に向けた工夫

本英語セッションは、入学予定者に大学英語学習の実態を提示し、自己理解と準備意識を高める機会となった。高校と大学の学習ギャップの軽減に一定の成果を挙げたものと考えられる。